

経済建設（事務調査報告）

■調査第六号「まちなみ形成と田園景観の保全について」

委員会では市民が富良野に住んでいて良かったと実感できる良好な生活環境を守ることと、観光のまちとして誇りに思い、観光客が居心地良く滞在できる空間を整えていかなければならないと認識し以下としました。

一、まちづくりにおける景観という概念について

建物や道路、看板等の人工的な景観は、自然景観と比べて景観という概念が定着していません。美しいまちなみは、周囲の自然景観と調和してつくられる景観という概念を今後のまちづくりの施策に盛り込んでいくべきです。

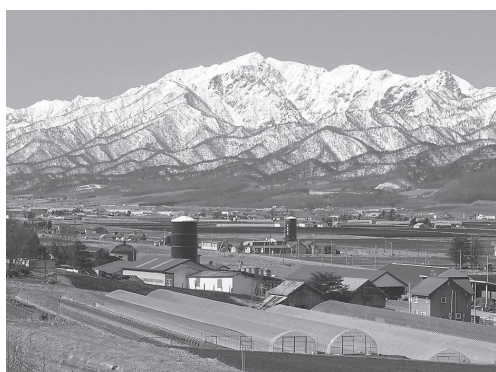
二、景観に対する市民意識の醸成について

市民一人ひとりが身近な景観に目を向け、意識を高めていくことが大切です。行政は、市民意識の醸成を図るために、市民が快適に暮らせる生活様式を確保しながら、市民への啓蒙や地

域の景観を、今一度見直す機会をつくり、まずはできるところからはじめていくという意識づけが大切です。

三、景観行政の具体的な施策と推進体制について

まちなみの形成や田園景観の保全については、景観という視点から建設、農業、観光を含めたあらゆる行政分野が関わり、多岐に渡る景観施策が考えられます。そのため、行政内部で景観に関する項目を精査し、富良野市としての景観行政のあり方の議論をして、その中で、景観施策の中核を担う部署を設置し、縦割りの弊害が生じないように行政内部で横のつながりをつくることが重要です。



自然景観と調和したまちなみ

経済建設（都市事例調査報告）

■調査事項「まちなみ形成と田園景観の保全について」

新潟県南魚沼市

県道の拡幅という機会を捉えてまちづくりに取り組み、優れたリーダーシップの熱意を行政と地元住民が受け止め、ともに協力し、行動し努力が結実した事例です。牧之通りのまちなみを統一するため、建物の外観は公共のものであるという認識のもとで、牧之通り組合は、自分たちで考え、行動を起こし、何か問題が発生した場合でも常に行政と相談できる信頼関係が築かれています。

富山県砺波市

屋敷林は優れた住環境を提供し、そこから心豊かな人間性が育まれてきました。近年、屋敷林の維持管理の問題や近代的な住宅への建て替えにより、その歴史的・文化的に価値ある景観が失われつつあります。砺波市の景観まちづくりは景観の視点から地域の歴史的・文化的に価値ある資産を継承するだけでなく、

く、空き家対策、移住・定住対策、地域の活性化等の諸課題を総体的に包含したものとなっています。市民、事業者、行政がともに景観を地域の資産として守り育てていくことを目指しており、まちづくりの中に景観という概念が定着している点は、見習うべきと感じました。

石川県輪島市

震災からの復興を目指し、まちなみを再生し、守ったことから、景観に対する住民の意識の高さを感じました。輪島市の景観条例は、法的な拘束力のある条例を模索しており、本市でも景観を阻害する事例が発生した場合の対処について、基本的な考えを整理する必要があります。



南魚沼市牧之通り まちなみ形成